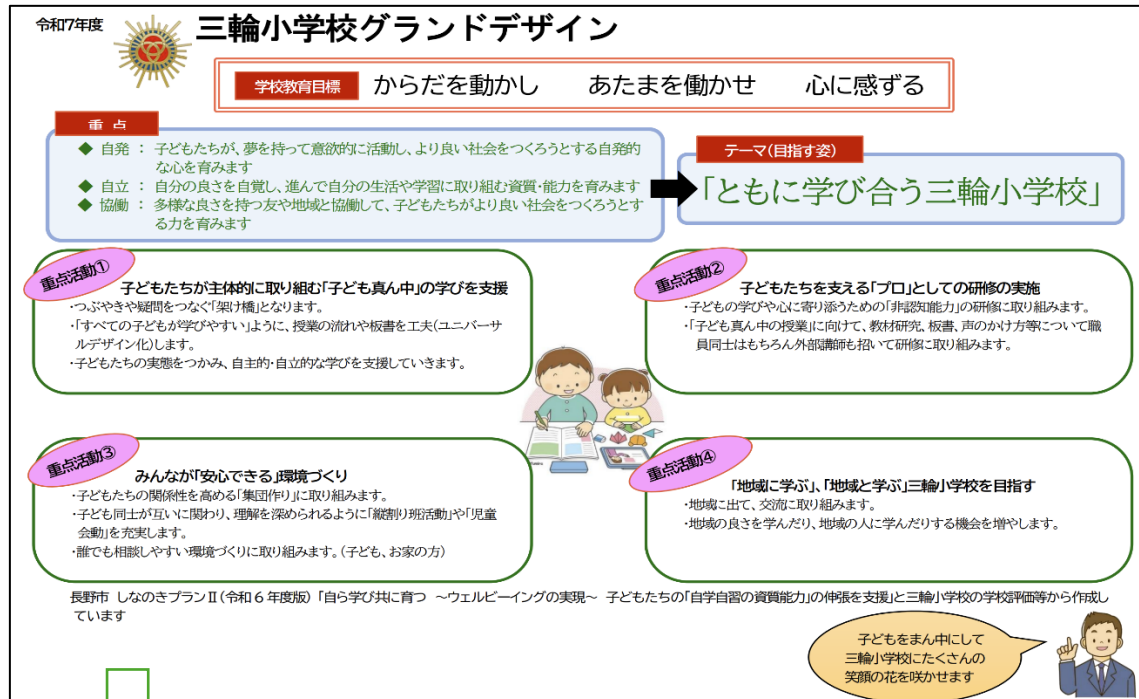




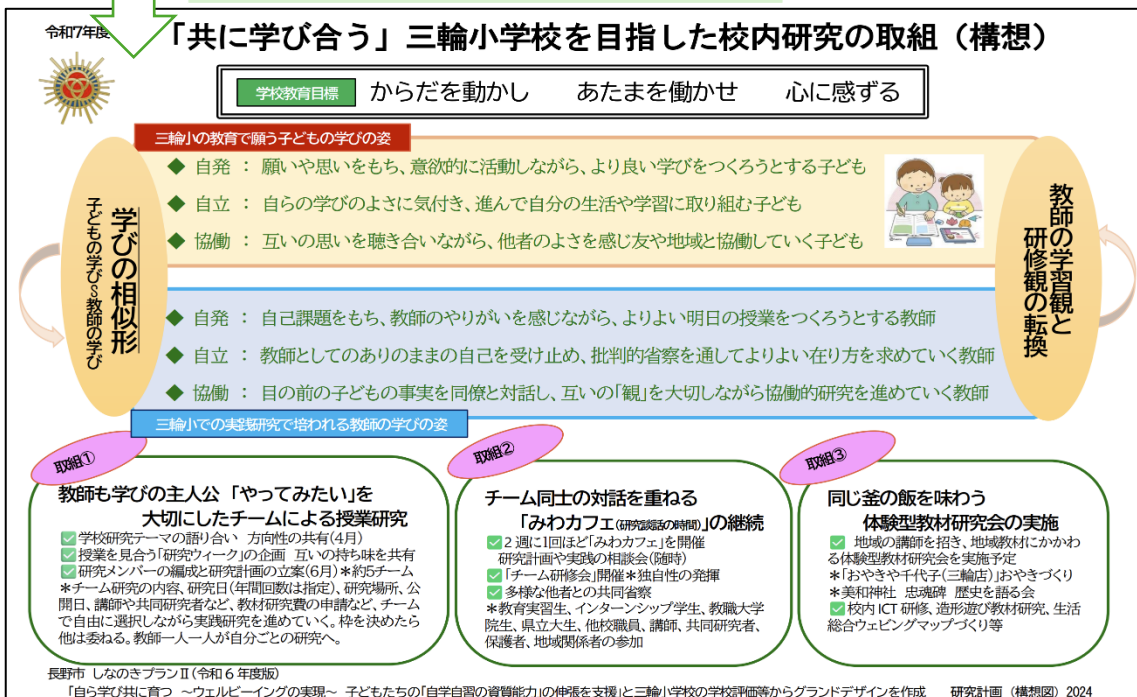
研究資料「わたしたちと子どものあゆみ」

長野市立三輪小学校 研究推進部

1 校内研究の取組の概要



グランドデザインから校内研究構想へ





2 ともに学び合う 校内研究の歩み（前期）

(1) 今年度の校内研究への思い ～昨年度の校内研究を振り返る〇研究主任～

前期の研究推進を振り返る研修日に、「学校全体の研究のはずなのに、気づけば自分一人が進めていたり、公開授業者のH先生に大きな負担をかけていたりしたのではないか。三輪小の教育の方向をみんなで共有し、もっと、一人一人が自分のやりたい実践研

究ができるようにしたい」と昨年度までのトップダウン型の研究体制に立ち止まった。教師自身の学びが自律的でなければ、子どもたちの自律した学習者を育てることは難しい。そのような問題意識から「子ども自らが心ゆくまで探究する授業」を支える教師が、通常の業務の中で、学び育つシステムの構築が本校の喫緊の課題として浮かび上がった。

まずは、一人一人が自らの授業改善に取り組める時間と場を生み出すこと。そして個々の教師が心ゆくまで教材研究を行い、同僚と子どもの事実を語り、自らの価値観や持ち味に気付いていく学びの場を求めることができる校内研究体制を探りたい。

今年度の研究推進部では、「学校組織マネジメント研修」（文部科学省，2005）で示されたチーム・マネジメントの展開を参考に、一人一人の個性豊かな三輪小学校の教師が互いの力量を生かせるパートナーシップ型の研究体制の在り方に着目した。具体的には、3人程度のチームを編成し、研究の場そのものを教師に委ねていくことで、教師自らが自己選択や自己調整をしながら自分ごととしての研究を進めることができるのではないかと考えている。基本的なチーム研究スタイルとしては、① まずは「何かをする」（アクション）② 次に「省察からその成果をチームとして喜び、他チームにアピールする場を設ける」（みわカフェでの語り合いの場）③ さらに「次のターゲットを決めて、新たなアクションを起こす」といった継続的・自主的・創造的な教師の取り組みを大切にしていく。また、研究主任はファシリテーター的な役割を担い、各チームリーダーが実践研究を推進していく。さらには、各チームのチーフリーダーが必要に応じて「みわカフェ（合同研究日）」を設けたり体験型教材研究会を企画したりしていきたい。そして、研究ウィークを企画し、お互いの授業を見合い、みわカフェで語り合いながら、自分磨きを重ねていく場を設けたい。チーム研究が展開し、互いが巻き込み合いながら授業改善を図っていきたい。

（２）今年度の取組

学校グラウンドデザイン「ともに学び合う学校づくり」に向け、私たち教師自身が自律的に学ぶことができる校内研究の在り方を探っている。

テーマの設定に合わせ、研究スタイルも主任を中心とする「トップダウン型」ではなく、各自が本当に追究したいことを自由に研究できる「ボトムアップ型」のチームスタイルを検討した。「研究ありき」ではなく、より必要感を持って取り組めるようにするためだ。そして、最終的には「やってよかった」と先生方に思ってもらえるよう、主任として取り組んでいきたい。

【パートナーシップ型の校内研究体制「チーム研究」の試み】

長野市が目指す「自学自習の資質能力」として、「子どもが他者と協働しながら、自らの学びを調整しようとする力」を育みたいと願い、授業実践を続けている。そのために必要となるのは、教師自身が研究課題をもち、同僚との対話と協働を重ねながら、研究の方法や内容を、選択・調整しながら学び合う「自分磨き」を進めていきたい。

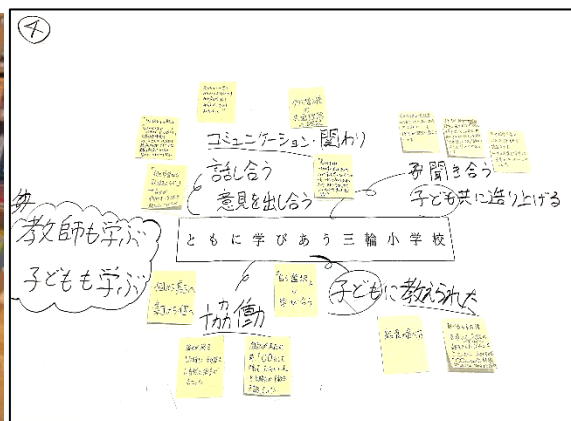
「教師も自らの学びの運転手」を合言葉に、3人程度のチームを編成し、研究内容や方法、研究の進捗なども各チームに委ねていきたい。少しずつだが、私たち教師も子どもと同じように自律的に学ぶ学習者として成長できる校内研究となるのではないだろうか。

【同僚との語り合いの場「みわカフェ」の継続】

研究推進部では、教師も学びの主人公の一人として個々の先生方の悩みや課題、願いに寄り添いながら、子どもたちの多様性を包み込む授業の実現に向けた校内研修の在り方について考えてきた。同僚との語り合いの中で、「もっと小回りのきくグループ研究ではどうか」「先生方からもっと学ぶチャンスがほしい」というアイデアから、今年度は小グループでの対話型校内研修「みわカフェ」を試みています。自らの授業課題をもとに、3人チームによる計画・実践・振り返りのサイクルを回していきます。研究の内容や方法を教師自身が選択していくことを大切にしている。

カフェスタイルの校内研修「みわカフェ」では、運動会の在り方を話し合ったり、授業で大切にしたいことをお互いに語り合ったりしてきた。また、生活・総合のウェビングマップづくりといったワークショップも取り入れてる。そして、チームの同僚と、「ともに学び合う姿とは」「すてきな子どもの姿を紹介し合おう」「わたしの憧れの先生像」「授業で大切にしていること」など、自分の思いや考えを言葉にして伝えたり、授業づくりに向けたその時々々の旬のテーマをめぐり語り合っている。

3 みわカフェの様子 フォトギャラリー



共同研究者の宮野先生より

三輪小学校の対話型校内研修の核となる「みわカフェ」では、先生方がお互いの提案や助言に刺激されて、「それならこういうのはどうか」「これも楽しいのでは」という開かれた会話を展開しています。そうした相互触発する関係を追求する「みわカフェ」は、個業化や抱え込みに苛まれる現代において、従来型の校内研修を問い直す試みといえます。



地域教材研究カフェ
おやきづくり
講師：おやきや千代子 小湊さん

2学期、子どもたちとわくわくする活動を
始めよう♪
この指とまれ♪
希望者研修

令和7年9月1日（月）
15:20-16:30 @三輪小学校家庭科室

「みわカフェ」のお知らせ
9月24日（水）15:30～16:15 @図書館

● 前期を振り返って「セレクトトーク」

信濃教育セレクト

子どもから学んだこと
教えてもらったこと

わたくしが感動した子ども
（たち）とのエピソード

研究推進おすすめ

みわカフェ（教師の学び合いの場）
を通して起きた、
自分の中での気づきや変化

おひとつ選んで
ゆっくり語らう
15分間

前期、心に残っている
あの授業、あの子どもの姿

初任者研修セレクト

聞いてほしい！
後期にやってみたい
授業のこと

これまで一番大変だった
こと、それをどう乗り越
えたのかエピソード

ビジネスパーソンセレクト

わたくしが教師として影響を受けた
人or本orできごと

企業面接セレクト

☺三輪小研究推進部

4 「みわカフェ」で話し、「研究ウィーク」で実践

第3回 みわカフェ エピソードシート【2025】

名前 _____

次回のみわカフェ（同僚との語り合いの場）では、エピソードシートをもとに、授業づくりでの自分のチャレンジや課題について今年度のメンバーと語り合います。

1 心に残っている先生は（そのわけやエピソードは当日のみわカフェで♪）

2 これまでの授業や生活で、心に残っている「あの子」 すてきなエピソード

3 子どもと向き合う中で、心がけていることは

4 今年度「ともに学び合う」ために大切にしたいことは（具体的な授業づくりのマイポイント）

「みわカフェ」では、「すてきな子どもの姿」や「憧れの先生像」、「授業で大切にしていること」「運動会は必要か」「夏休みの思い出」など、多岐にわたるその時々旬のテーマについて対話をしてきた。教師としての自分を振り返りながら同僚に語ることに最初は少し緊張していた様子があったが、どんどん自身の思いや願いを語る先生方の姿があった。互いの思いを知るとともに、これまでは知らなかったその先生の一面にも出会うことができ、教師としての同僚性も深まっているように感じている。

「みわカフェ」では3人ほどのチームで授業や教材、子ども理解について話し合う時間もある。「子どもが発見する授業」「自律的な学ぶ子どもを育てたい」「ICT活用による対話的な学びを」「子どもの願いを大切にしたい導入の工夫」など、チームでの課題も設定している。授業を見合う「研究ウィーク」では、お互いの授業と子どもの姿を語り合う機会としている。

チーム研究スタート（7月）	
授業づくりで課題に感じていること（チームトーク）	
①グループ	・子ども達で進める、子ども同士が関わって話し合ったり、内容を深めたりできる授業。（国、道、生活単元等で） ・自分の考えを持って、関わり合いながら学ぶ授業のあり方。 ・子ども達をゆさぶる声かけについて
②グループ	・個人差があっても、どの子ども達成できそうなゴールを設定するための導入のあり方（気持ち面、多様な考えを受け入れるための立て方、見通しの持たせ方）・・・国、算、生活などで
③グループ	・グループ活動のあり方 →自分の考えを比較し、次の課題につなげるにはどうすればよいか。
④グループ	・社会科の授業を、どう展開していくか。 →活動のメリハリ、切り替えについて
⑤グループ	・子どもがICTを使って意欲的に取り組む授業展開のあり方 →一人1台タブレットを使って、学びの選択ができるような授業展開のあり方 ・小グループで意見交換をしながら学びを深める授業について ・子どものわからないに寄り添い、一人でもわかるようにできる手立ての実践
⑥グループ	・子どもたちが静かに話を聞くにはどうすればよいか。 →いろいろなやり方を試していく。 →聞くためのゲーム「トーキングゲーム」に取り組む →特支の先生にいろいろ教わる。

三輪小学校

研究ウィーク①

子どもたちのこんな姿が見たい！
授業で見えた子どもの学びの姿を☆
たくさん話し合える 5日間

先生も いっぱい学べる 学校

見て、話して、次につなげていきましょう！

資料「わたしの授業カード」

<授業カード>	
授業者	
日時	令和7年9月3日(水) 2時間目
教科・単元名	総合
ねらい	「(仮)4年2組のお祭りをしよう」 どんなお祭りにしたいか?何ができそうか?をみんなで考え意見を出し合い、今後の活動への意欲を高める。
手だて	・ウェビングマップのワークシート ・4人グループでの話し合い
手だてに至った経緯	子どもたちの願いを大切に活動をしていきたいと考えた。そこで、より子どもたちが自由な発想で意見を出し合えるような話し合いにしたいので、ウェビングマップ作りの活動にした。

<授業カード>	
授業者	
日時	9月3日
教科・単元名	社会・私たちの生活と食料生産
ねらい	児童一人ひとりがその時間に最適な学習方法を主体的に選び、その時間で身に着けるべき知識や技能を学ぶことができる。
手だて	教科書、資料集、タブレットから児童が自分自身でツールを洗濯し、調べ学習に用いる。個人追究かグループ学習をするかの選択も児童にゆだねる。調べた内容はノートにまとめる。
手だてに至った経緯	社会が苦手、あるいは嫌いな子どもたちが多く、学習方法を選択制にすることにより、興味関心を引き、主体的に学習に臨む態度を育むため。

みわカフェゲスト 指導主事のT先生からのお話

- ・探究的な学びに動く、教科の見方・考え方を育てていくための授業づくりにしていくこと。
 - ・「おやおや?」「どうしてかな」という意識になる課題設定
 - ・統合的: つなげて考えること 発展的: さらにこのような解決もできるのではないかと考えていくこと
 - ・気づきとは一人一人にある。本時の気づきから次時のめあてが設定されていく。
 - ・1年間の中で、一単元でも子どもがじっくりと探究できる機会を。
 - ・教師から与えた問題ではなく、子どもたちの思いや願いから学習問題を設定していくことこそ、探究的な学びを支える教師の役割である。
- 【すてきな教室の声】
- ・「めあて、何となくわかる」あなたならどういうめあてにする?
 - ・「もう一個、案がある。はい!」
- 【すてきな先生たちの声】
- ・「どうやって考えたらいいかな? どちらからでもいいよ。まずは、自分でお友だちと。*子どもたちが選択できる場面 身近な生活場面と結び付けて



持ち物
好きなドリンク

チーム研 みわカフェ⑮

チーム小笠原
3-2 総合的な学習の時間についてチームで話し合います。
子どもの「やってみよう」を叶えていく学習にしていきます♪
(チームゲスト 藤澤校長先生)

チーム出浦
授業公開5-1 (4校時 総合)
授業公開6-1 (3校時 社会)
「子どもが自ら選択して学びを調整していく姿」を言葉に互いの実践についてチームで語ります♪
(チームゲスト 林克也先生・大畑教頭先生)

チーム九蘭
授業公開4-1 (5時間目)
音楽の鑑賞の授業を見合い、子どもたちが作曲家を身近に感じる姿について考え合います♪
(チームゲスト 宮野先生)

2025年
11/17(月)
15:30~16:15
@図書館

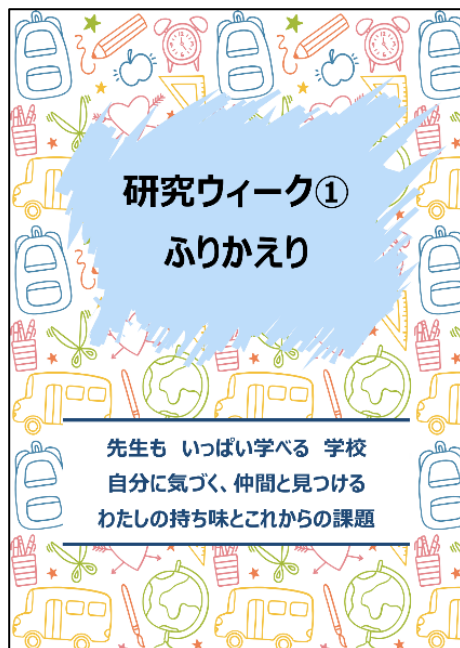
チーム五味
探究的・協働的な学びを支えるICT活用について、オクリンクルス講習会を開催します!!
(チームゲスト メディアコーディネーター山本先生)

チーム平林
【ふれあい展のためお休み】
特別支援教育のさらなる充実のために教材、支援についてチームで語り合っています。

チーム研 15:30~16:00
宮野先生・林先生のお話 16:00~

5 とともに学び合う 校内研究の歩み（後期）

（1）研究推進部でのふり返し（10月）



各自で明確にすることができたことだ。

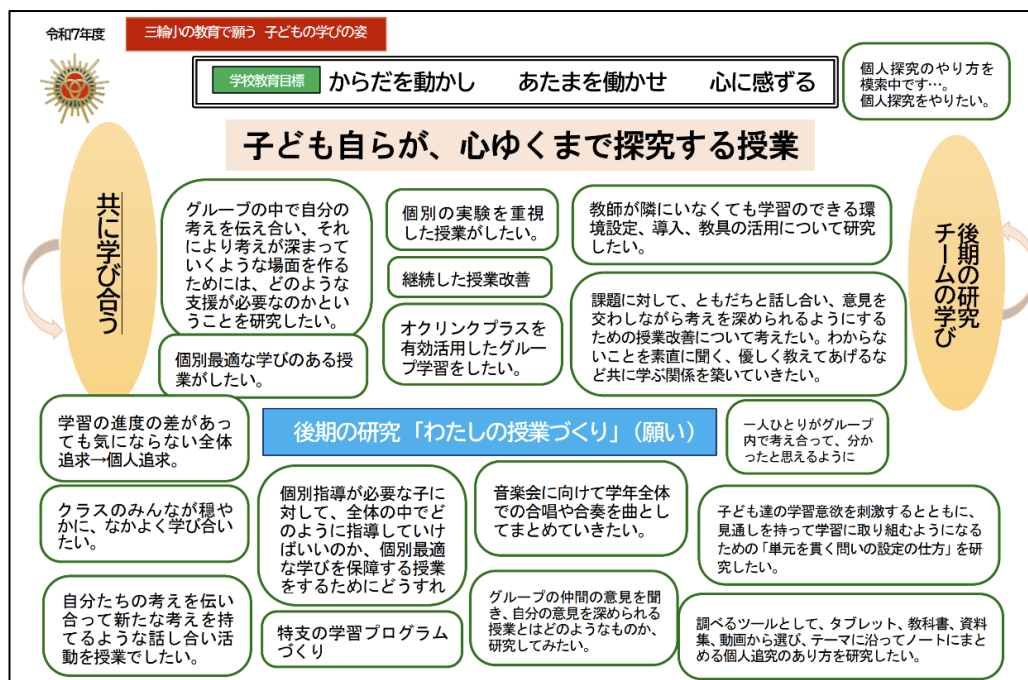
研究ウィークⅡ 授業構想カード		
月	日 ()	校時
授業学級・授業者		
教科名 _____ 単元名 _____		
○ 前時の子どもたちの主な意識（やりたいこと、わかったこと、悩みなど）		
○ 本時、「わかったこと（気づき）」として、子どもから発してほしい言葉や内容（めあて・評価）		
展開	学習活動 子どもの反応	教師の手立て
導入		
展開		
終末		
○ このような授業になるための本時のねらい		
【振り返り】 *授業をふりかえて感じたことを		

研究推進にあたっては「対話すること」（みわカフェ）を位置づけ、少人数（3，4人のグループ）での「対話」を積み重ねてきた。「これまでの授業の振り返り」や、「多様な児童を受け容れる授業のあり方」のみわカフェでは、「授業で困っていることを共感してもらえた」や、「新しいアイデアを知ることができた」など好意的な感想が多くあった。このように「対話する」ことは、他者の考えに触れ新たな気づきを得たり、自らに問い返して新たな課題を見つけたりすることにつながる。1学期の成果は、先生方が「対話」を通して研究テーマの実現に向け取り組みたいことを

一方で、みわカフェでの対話が日々の授業改善に直結していく時間となっているかという課題も浮き彫りになった。後期からの課題は少人数（3人程度のグループ）で、対話を重ねながら日々の授業改善をいかに進めていくかという点である。従来の研究スタイルよりも自由度が高いぶん、何をしてよいか迷い停滞することが予想される。また、どう授業に反映させればよいかで困る場面もあると思う。各グループに「チーフ」（研究推進係）がいるので、係で密に連携し、進捗状況や困っていることなどを共有し、全体でサポートしていく仕組みを構築していきたい。また、外部講師の力も借りながら適宜評価・検証すること

で意欲を高め、研究をダイナミックに進めていきたい。そして主任としては、関わりがありそうなことや授業の様子を紹介するなど、グループを超えて積極的に関わることで架け橋となり、研究全体を盛り上げていきたいと思う。

(2) チーム研究（10月）授業づくりで課題に感じていること



後期も、一人一人が自分磨きのテーマをもって授業づくりに取り組んでほしいという願いから、「わたしの授業づくり」について考える機会を設けた。みわカフェの時間に、互いの授業づくりの課題について共有した。

11月の研究ウィーク②に向けて、毎週のチーム研究日を各チームが運営し始めている。研究の方法も「場面を決めて授業を見合う」や「撮影した動画を振り返る」など、チームで決めた方法で取り組み、週1回の研究日に振り返りと次回の相談を重ねてきている。11月28日（金）の学び創造研究会では、これまでの積み重ねをもとに、各チームの計画による授業公開と放課後のみわカフェを予定している。

(3) 学び創造研究会の日程

28日（金）の公開授業では、①「総合（3年）」②「道徳（4年）」、③「生活（1年）」、④「特別支援」、⑤「社会（5年）」を予定している。それぞれ自らの授業課題に対しチームでの検討を重ねてきたものを取り入れた授業を行う。参観される方には、「みわカフェ①」で子どもたちの姿を通して何を感じ取っていただいたのかを教えていただきたい。

「みわカフェ②」では、各チームから提案されたテーマについて情報交換やアイデアを語り合いたいと考えている。

～日程～

- ① 受付 12:45～
- ② 公開授業 13:00～13:45
- ③ 開会行事 14:10～14:30
- ④ みわカフェ① 授業者と語る会 14:30～15:00
- ⑤ みわカフェ② テーマ・トーク 15:10～15:50
- ⑥ 講演会 16:00～16:40
「三輪小の教師の学びが意味するもの」
- ⑦ 閉会行事 16:40～16:50